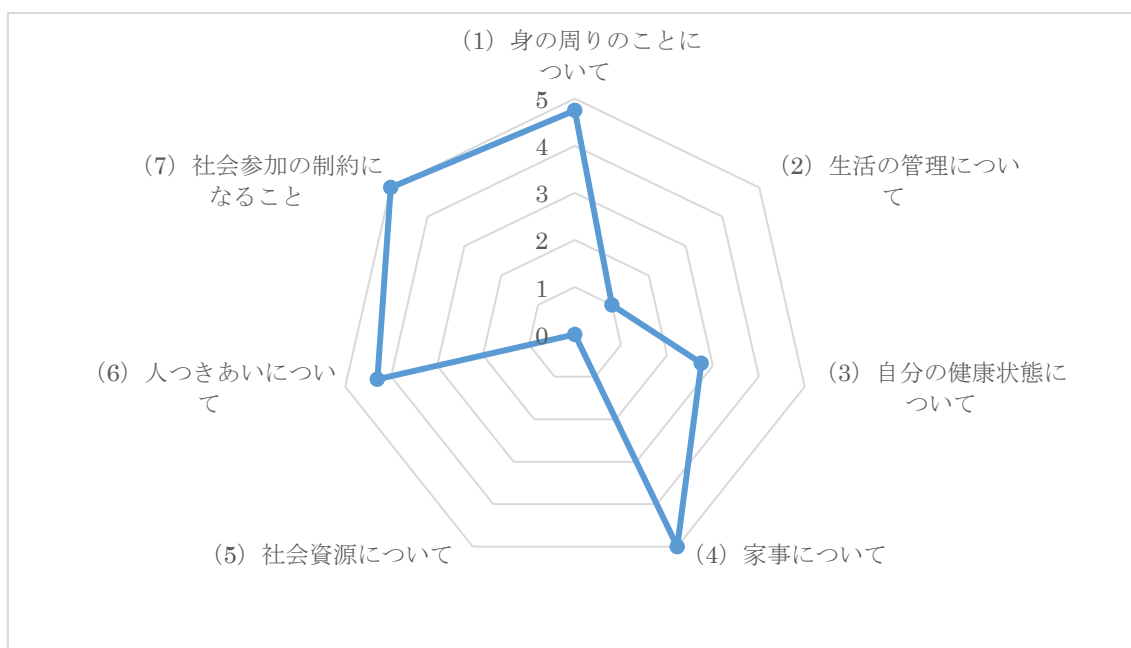


・集団の観察評価

開始時当初は、どのような流れでどのようなことを実施していくのかが分からず、不安や緊張感が高く発言の少ない集団であったが、2回目以降は流れの把握ができてきて発言のタイミングや実施の内容が理解できると、患者様の表情に余裕や笑顔が生まれ、活気のある集団へと変化していく様子が見られました。

・問題点の抽出の工夫

対人関係で困っていることを言語化・表出させることが難しい患者様もいらっしゃるため、課題をあげる場面からOTが関わっていき、患者様自身の問題点の把握にも努めております。課題の抽出には、精神障害者ケアアセスメントを用いることもあり、目標や課題を患者様とスタッフがより明確に把握することができます。



	得点
(1) 身の周りのことについて	4.75
(2) 生活の管理について	1
(3) 自分の健康状態について	2.75
(4) 家事について	5
(5) 社会資源について	0
(6) 人つきあいについて	4.3
(7) 社会参加の制約になること	5

- ・スキル汎化のための取り組み

SST 終了時に宿題を提示しており、ロールプレイングで行った内容を実生活での般化を促しています。実行できた患者様からは、「上手くできたよ。」「他の患者さんや看護師さんと一緒に練習したよ。」などの感想を頂いております。